

株式会社ニチハン繊維 CAM(自動裁断機)の導入で高品質商品製造や 生産性向上で雇用拡大に繋ぐ



代表取締役 大城 英幸

Background 経緯

当社は(株)日進商会の100%出資子会社である。日進商会は昭和27年に事業を開始し、現在はスクールユニフォームやビジネスユニフォーム、それにかりゆしウェアの製造販売を手がけており、かりゆしウェアではMAJUNというブランドを展開し、好評をいただいている。

ニチハン繊維は日進商会が販売するかりゆしウェアの製造を担当している。日進商会が企画・発注し、ニチハン繊維がパターン作成、裁断、縫製、プレス、検査まで一貫して行うという流れだ。

ちなみに当社における縫製では高級シャツで使われる「巻伏せ本縫い」という手法を採用している。この縫製法でかりゆしウェアを作るメーカーは県内ではまだ少ない。それもあってか、日進商会のかりゆしウェアは人気があり、ニチハン繊維としても生産量アップを図る必要があった。しかし、生地のカットを5人の作業員が手作業で行っており、高コスト、納期の遅れ、品質のブレが発生し、生産拡大の大きなネックとなっていた。



導入した自動裁断機(CAM)

Result 成果

5人で行っていた裁断作業が、CAMならオペレーター2人で行えるようになった。手作業では枚数が多くなるとどうしても下の部分ではズレが生じ、生地の切断線がゆがむことがあった。しかし、CAMの導入でそれがなくなって縫製作業がスムーズになり、さらに製品の品質向上にもつながった。



製造しているかりゆしウェアの一例

Content 事業内容

裁断のスピードと精度を上げることを目的に、ものづくり補助金を活用して自動裁断機(CAM)を導入した。運用に際してはメーカーの技術指導も受け、手作業と機械での裁断の比較も行った。その結果、一日の裁断可能数は手作業の250枚から機械裁断の650枚と、2.6倍にアップする見込みであることがわかった。

Outlook 今後の展望

CAM導入後1年で仕掛かり1,000枚(かりゆしウェア生産量の4日分)を目標とし、生産量の増加に対応する。あわせてほかの工程も機械化を進め、新たな人員を採用し、縫製ラインの拡充と技術教育に取り組み、導入後3年で1日の生産量を250枚から倍の500枚にすることも十分可能と考える。さらに納期を遅らせることなく小ロットでの裁断が可能になるため、顧客の細かいニーズにも対応できるようになるだろう。